東西問答

芥川龍之介

青空文庫

問　現代の作家に就いて、比較上の問題ですが、東洋種と西洋種とに区別したら如何なものでせうか。

答　それは東洋種と西洋種とに分けられるかも知れない。けれども多少の西洋種を交へて居ないものは殆んどないと云つてもいいだらう。たとへば久保田万太郎君なぞは、純日本種の作家のやうに思はれて居るが、久保田君の小説には、プロロオグと横文字に題を書いたのがある。勿論作品そのものの中にも、多分に三田文学流の西洋種を交へて居る。先づ比較的西洋種を交へない作家と云へば、徳田秋声氏位のものだらうと思ふ。

問　葛西善蔵氏はどうですか。

答　葛西善蔵氏も、西洋種の交りは少いと思ふ。

問　それでは、東洋種の作家の作品の要素をお伺ひしたいのです。

答　それは難問だね。ここに云ふ東洋種と云ふ意味は、西洋種の交つて居ないと云ふ事だ。即ち消極的に云つたものに過ぎない。それを積極的にどう云ふ特色のあるものが、東洋種になるかと云ふ事になると、三考も四考もしなければならない。それはお互ひに面倒だし、まあ見合せる事にしよう。ただ徳田秋声氏や葛西善蔵氏の作品には、官能的にも思想的にも、西洋人にかぶれたと云ふ痕跡が少い。それ丈けは安全に云ひ得られるかと思ふ。

×

問　風流に就いて御意見を。

答　風流と云ふ事をどう解釈するかは、文人墨客の風流は、先づ日永の遊戯である。南画南画と云ふけれど、二三の天才をのぞいた外は、大部分下らないものと云つて差支へない。僕はああ云ふ風流を弄びたくない。僕の尊敬する東洋趣味は、（前の東洋種と混合してはいけない）人麻呂の歌を生み、玉※の蘭を生み、芭蕉の句を生んだ精神である。煎茶の宗匠や、漢詩人などの東洋趣味と、一緒にされて堪るものではない。

問　佐藤春夫氏は風流を感覚だと云ひ、久米正雄氏はそれを意志だと云つて居ますが、それに就いてのお考は如何でせうか。

答　それは感覚と云ふ言葉の意味や、意志と云ふ言葉の意味を、はつきり制限して貰はないと、僕にはどちらにも左袒出来ない。あらゆる芸術は感覚的である。同時に又あらゆる芸術は、意志的である。だから、風流は意志だと云ふ説も、ある意味では成立つと同時に、風流は感覚だと云ふ説も、矢張りある意味ではなりたつだらう。僕はまだ両氏の議論を読んで居ない。両氏はどの位感覚と意志とを別のものにして、論ずる事が出来たかそれを見る時を楽しみにして居る。

問　行為を主としたものと、心境を主としたものとの差別が文芸上には、ありませんでせうか。

答　主として事件を書いたものと、主として心境を書いたものの差別は、あると思ふ。

問　それで、事件を主としたものが西洋的に、心境を主としたものが東洋的と云へるでせうか。

答　水滸伝でも、槍の権三でも、皆事件を主にして居る。しかし矢張り東洋的である。ゲエテの「さ迷へる人の歌」のやうなものは、心境を主として居る。しかし矢張り西洋的である。心境と事件と

か云ふやうなものでは、東洋と西洋の区別を、大ざつぱにさへ出来ないと思ふ。要するにその作者次第だと思ふ。

×

問　将来の日本の文芸はどうなるでせうか。西洋的になるでせうか。又東洋的になるでせうか。

答　それはどつちになるかわからない。しかしこれだけは確実である。若し将来、西洋人が日本の文芸を珍重するとすれば、東洋的の文芸を珍重するだらう。例へば、形容の言葉にしても、「孔雀のやうに傲慢な女」と云ふのは日本人には新しい感じを与へても、西洋人には新しい感じを与へない。逆に「瓜実顔の女」と云ふのは、日本人には珍しくないが、西洋人には珍しいだらう。一つの形容の言葉に就いて云はれる事は、作品全体に就いても云はれる事である。

（大正十五年五月）

［談話］

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚　芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行
1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行
入力：土屋隆
校正：松永正敏
2007年6月26日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

東西問答

芥川龍之介

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/